



つるがしま里山サポートクラブ 通信

第21号
2025. 10. 01
発行
小澤邦彦
編集
杉山行汪

クラブに入会して早や5年 提案です

理事 小嶋 道弘

当クラブの基本的作業の一つは市民の森の整備維持管理活動です。市と地権者と当クラブの協定により森の環境保全を行い、市民の憩いの場として里山を守るために活動をしています。活動の内容は多岐にわたります。下刈り・樹木伐採・植樹・河辺清掃作業や、里山を流れる水流には虫、餌になるカワナナの放流、アメリカザリガニの駆除等々。これらの作業の用具や機械も多岐にわたります。草刈りには鎌、刈払い機、ハンマーナイフ、樹木の枝落とし、伐採には大・小のこぎり、チェーンソー、ウッドチップパーなどが有ります。これらの機械類は、使い方によっては大きな事故に繋がります。

作業の安全と共に大切なことは、作業の効率を高め、機械の寿命を延ばし、修理費をできるだけ少なくするための工夫をみんなで考え共有する、守る必要が有ります。

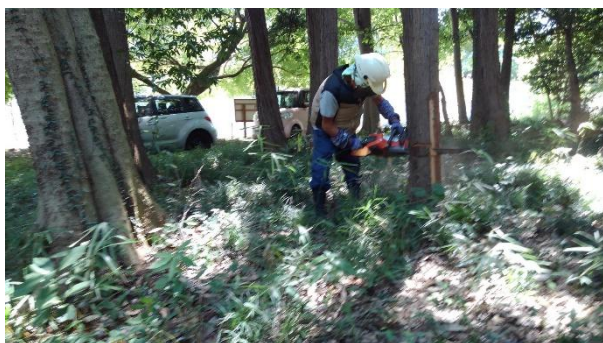
こうした工夫を進めるに当たってその前提として踏まえておきたいことは、当クラブの会員は普段は夫々の日常生活や趣味や或いは仕事に従事している訳で、本職の職業として毎日これらの機械を絶えず動かしている訳ではないと言うことです。クラブの行事の時間だけこれらの機械を動かすのです。従って基本的な知識を学んでいなかったり、忘れていたり、うっかりすることは常に起こりうるのであってクラブ在籍年数が長いから信頼できる訳では無いと言うことです。

従って、その機械を動かすときは大事なことを思い起こさせる工夫が必要になってきます。

作業の安全、機械の整備、軽微な故障の修理技術を考えたり身に付けたりする仕組みを作りませんか。誰でも参加できて共通の価値観を創り、そして「尊重・尊敬」され、里山サポートクラブの中において指導者であり「リスペクト」される存在にしたい。

クラブの現在の状況は急速に高齢化が進み（現在若くて50歳代、上は84歳）段々と先が見えてくるような年齢になってきています。そのためには若い世代の加入者、後継者になってくれる人から魅力あるクラブと見られ、共に成長するクラブにしたい。

最後に、服装は正しく身に付け、作業方法を守り、ヒヤリとしたことハットしたことから改善を行い、重大事故を起こさないようにしよう。作業が終わったら道具はきれいにし、所定の場所に戻す。これはすべての作業に通じる基本であり、クラブの風土としたい。



7月～9月の主な活動

この夏は藤小学校、杉下小学校、NPO 法人カローレ、仲良しっ子クラブ、西市民センター等々からの協力や参加の依頼に応じ流しソーメンは3回、その他竹細工、等々忙しい夏を過ごしました。

五味ヶ谷の森にある豊富な竹林資源を活かし、暑さにも関わらず意気軒高な会員は大活躍です。クラブが整備活動している五味ヶ谷の森、藤金の森、太田ヶ谷の森です。(高倉の森は殆ど消滅ですが市有地の整備と植林は継続しています。)

これらの森を知り、市民に親しんで貰うためボランティアの協力を得ながら整備活動と里山体験会を実施しています。

公園と違って森は豊かに生物の多様性を保持しており、藤金の森では生物のインストラクターが蛇と蛙を見つけて子供たちに触らせていました。森だからこそです。

鶴ヶ島市内を流れる河川の清掃や蛍の復活作戦も地道に継続しています。クラブ員の交流も有ります。都幾川上流の会員の別荘でのBBQ、ランチ会では言いたい放題の議論に花が咲きました。

鶴ヶ島市にある6カ所の市民の森と太田ヶ谷の森は、市民が自然に触れ、公園とは全く違う緑を感じる場所です。子どもたちにとっても自然を学ぶ場所です。これから我々は活動していきます。

7月～9月活動実施

7/ 2(水) 杉下小七夕祭りの竹採取の協力
7/ 4(金) 杉下小七夕祭り参加
7/ 9(水) 会員親睦バーベキュー
7/14(月) 杉下小虫取りの協力
7/26(土) ボランティア体験会 in 五味ヶ谷の森
8/ 6(水) 流しソーメン用竹採取
8/ 7(木) 蛍用ワナ採取
8/ 9(土) ボランティア体験会 in 太田ヶ谷の森
8/10(日) 仲良しっ子クラブ 流しソーメン協力
8/23(土) NPO 法人カローレ竹細工協力
8/30(土) ボランティア体験会 in 藤金の森
9/ 6(土) 里山体験会 in 藤金の森
9/16(火) 里山ランチ会
9/18(木) 逆木倉庫整備
9/24(木) 流しソーメン用竹採取
9/26(金) 藤小流しソーメン協力
9/30(火) 杉下小流しソーメン協力

10月～12月 活動計画

10/11(土) 太田ヶ谷の森の水路に桜植樹	11/ 1(土) 里山体験会 in 五味ヶ谷の森	12/10(水) 五味ヶ谷の森整備
10/18(土) 西市民センター祭りに参加	11/ 8(土) 銀杏並木に銀杏植樹	12/20(土) 一二三富の会門松教室応援
10/25(土) 五味ヶ谷の森整備	11/16(日) 大谷川クリーン大作戦	12/27(土) 門松教室
	11/23(日) 運動公園清掃&焼芋パーティー	

スケジュールは追加や変更が有りますので、当クラブ HPを確認して下さい

何もせぬには長すぎる、何かするには短かすぎる 長島 安一

私は高校の化学教員でした。あわせて、植物や動物にも興味を持って過ごしてきました。小学生のころから、食塩水を電気分解して塩素を発生させたりする以外にも、近くの小川でフナを捕ったり、つかまえたカニやイモリを飼ったり、山から春蘭（ジジババ）を採ってきて植えたり、自然とのふれあいの多い生活でした。また、サイエンスインストラクターとして子ども達を対象とした科学工作教室を30年ほど続けています。60歳過ぎてからは、自治会や地域での活動にも関心を持つようになりました。

「里山サポートクラブ」への入会につきましては、いくつかの出来事が重なっています。一つは、昨年6月の「里山体験会」に協力したこと。市民の森の重要性を感じました。一つは、学童でとてもお世話になった石川さんから活動について聞いたこと。一つは、自宅近くの市民センターにあった大きなクスノキが昨年8月に突然伐採されたこと。直径70～80cmほどのクスノキで、子ども達もよく遊んでいました。駐車場の拡張のために地域住民には説明がなく、伐採されました。鶴ヶ島の景観保全について問題意識を持ちました。一つは、他市に住んでいる中学時代の友人から、鶴ヶ島では市民の森が減ってきて里山保全が困難なのでは、と質問されたこと。鶴ヶ島に住む当事者の一人として、里山サポートクラブの活動に参加したいと思います。



こども達への自然教育対応について 副代表 小沼 英二

わがクラブの目的は定款で「良好な樹林地を未来に継承する。」としています。ここでいう継承とは、スペースとしての里山・樹林地を保全・確保・維持していくとともに次世代のこども達に引き継いでいくことを意味します。

次世代に里山・樹林地を残すことをアピールできる具体的な方法として当クラブは2つのチャンネルを実行しています。

1. イベント開催を通じ、自然体験を経験できる機会の提供

(1) 当クラブ主催の里山体験会（ツリーイング、ハンモック、綱渡り、川遊び等）、タケノコ堀り、門松づくりなどを通じ、市民の森等に直接触れてもらう。

(2) 他団体主催のイベント等への参加・支援

幼稚園、保育園、カローレ、なかよしっ子クラブ等での竹細工教室、流しソーメン、ホテル幼虫放虫などで他団体活動を支援する。

2. 小学校3学年の総合学習授業における自然体験学習支援

上述1は参加者を鶴ヶ島市内外に幅広く呼び掛けることができるが、こども達の参加は親御さんの意向が反映されることがある。学校授業での実施は当該生徒全員の参加となる。（現在、3つの小学校で支援している。）

人としての問題解決能力、総合判断力、他者への思いやり、気遣いなどは幼少期に自然に触れる機会が多いほど培われ、高められるといわれているが、現在の諸状況の中で、若い親御さん世代は、多忙であり、自然に触れる機会が従来と比べ少なくなっているといえる。わがクラブは高齢者集団であり、孫世代の自然へのふれあい機会を提供できる組織活動を実践しているので2つのチャンネルを通じ、この役割を今後とも発揮し広めていきたい。

五味ヶ谷の森の真竹の保護について 副代表 佐野 英樹

1. 現状

わがクラブが五味ヶ谷市民の森で活動を開始したころから、森の東南の角地にある真竹の小さな群落は、バンブーパンの串の材料や竹細工の材料などを手に入れる貴重な竹林でした。

しかし、最近は竹の本数が減少し、20本前後のバンブーパンの串の入手に手間取るようになっていきます。確実に本数が減少しています。

これは、周囲のモウソウチクが真竹の群落に侵入しているのが原因ではないかと私は考えます。

（真竹の群落の位置は図の通り）

2. 対策の提案

真竹の群落を保護するために、保護する範囲を定め、その中のモウソウチクを駆除することを提案します。

この提案は、長年の庭いじりの経験から出たもので、放置するよりは良い効果があるのではないかと考えています。現場の南側は低いブロック塀で日光を遮るものが無いのでモウソウチクを制御することにより真竹が元気になることを期待します。

3. 具体的な作業

わがクラブの年間スケジュールは満杯で新しい活動日を設定することはかなり困難なので、従来の活動の中で出来ることを考えました。具体的には次の通りです。

1) 保護範囲の決定

今年の10月あるいは11月の五味ヶ谷市民の森の活動日に、参加会員が保護範囲を決定する。

（4頁目下段へ続く）



高倉市民の森市有地は、「里山の恵みを楽しめる森」をコンセプトに、植樹することを提案します。

私の故郷は、千葉県最南端、現「房総市」です。森があり川が流れ海が広がる自然の豊かな地域です。実家は100年続いた米農家ですので、生活の全ての面で、生態系サービスに恵まれて育ってきました。特に実家の裏山に自生していたキイチゴとヤマモモを近所の友達と食べるのが、季節の楽しみでした。5月には毎朝、裏山のホテイチクのタケノコの味噌汁をいただき初夏を感じていました。また学校の帰りに河原に自生していたグミを食べたのも懐かしい思い出です。

2021年から太田ヶ谷の森で、植樹活動をはじめ、将来子どもたちが楽しめるように、ヤマモモやキイチゴを植えて育てていました。ところが

2023年にシルバーの草刈り作業時に、ヤマモモ2本を除き全て伐採されてしまいました。太田ヶ谷の森での「里山恵みの森」計画は、あきらめるしかありませんでした。代替え地として、高倉市有地の一部である旧残材集積場広場を使えないか市と交渉したところ、許可がでたため、「里山恵みの森」実現活動を再開しました。

2024年から、植樹地の象徴としてモミの木を植え、子どもたちのために、ヤマモモ、スダジイ、夏グミ、杏子、柿、キイチゴを植えました。昨年のアペルト野外学習では、子どもたちがグミを美味しく食べていました。

今年も、食用にヤマモモ、キイチゴ、スダジイ、マタタビを発注し、鶴ヶ島市の木である松も発注しています。なお、鶴ヶ島市のあちこちの樹林地に大量に自生しているウワミズザクラは、蕾が「あんにとご」と言われて、塩漬けでもテンブラでも美味しく食べられます。実は小さくて物足りないとは思いますが、美味しいです。太田ヶ谷の森で、実生の苗を見つけ、移植する計画です。



(3頁目より続く)

2) モウソウチクの伐採

12月の門松教室の準備作業の中で、保護範囲内のモウソウチクをすべて伐採する。

モウソウチクと真竹の区別はベテランが現場で立ち合い指導する。

3) モウソウチクの筍の駆除

春のタケノコ掘の活動日に保護範囲内のモウソウチクのタケノコを駆除する。

以後、この活動を継続する。

4) お願い

もっと有効な手段があれば提案してください。

種類や時期や量の検討が必要ですが肥料を施すこともアリかもしれません。

編集後記

今号では3人の方からそれぞれ計画や提案が出されました。御三方は前々からお考えだったことと思います。皆さんも色々思うことがお有りでしょうから積極的にご意見をお寄せ頂きたいと思います。併せてご協力をお願いします。今夏の暑さにもめげず会の行事は淡々と進んで来たなんて驚きです。もう一つの驚きは、5月に挿し木した小彼岸桜の苗木から次々と真っ白な小彼岸桜が咲き、9月中頃には紫陽花も咲き花見を楽しみました。

